

授業科目名： 教科（図画工作）	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： <small>かしなが たくぞう</small> 樫永 卓三 <small>はしもと けいこ</small> 橋本 敬子 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）	「教科に関する科目(図画工作)」小学校教諭として勤務経験を持つ教員が、図画工作科における指導内容や指導方法について指導する。		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校） 領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「図画工作」（小学校） 領域に関する専門的事項 「図画工作」（幼稚園）		
「学位授与の方針」との関係 個々の児童の発達特性を最優先しながら表現活動の喜びを提供していくための、基本的な考え方や他教科等との関連や学校教育全体の中での位置付け・価値付けを、自学自習やスクーリング時でのグループワークや実技を導入しながら進めていく学修過程は、全て本学ディプロマポリシーのA～Fに関係したプログラムになっている。			
授業の到達目標及びテーマ （1）学習指導要領に基づいて図画工作科の目標や内容の理解を図り、その取り扱いや他教科等との関連、評価などを具体的な事例を通して説明できる。 （2）「表現する子ども」の観点から子どもの発達特性に着目して、指導に関する配慮事項等や「もの」から教材性を探るなど、子どもの造形活動を推進するための具体的な指導法を説明できる。 （3）図画工作科と他教科・領域との関連や横断的な取り扱いについて具体的に説明できる。 （4）鑑賞とコミュニケーション能力を培う図画工作科の在り方を説明できる。			
授業の概要 小学校学習指導要領(図画工作)の目標や内容の取り扱い、他教科等(特に、「生活科」や「総合的な学習の時間」)との関連について実践的に理解し、また図画工作科の評価法や子どもの発達特性と造形的な創造活動との関連についても学修するとともに、教材性の発見や題材の設定の仕方を習得し、他教科との関連や横断的な取り扱い方の配慮事項等を理解する。アクティブラーニングの手法も用いて実施。			
授業計画 第1回：図画工作科の目標設定の背景 第2回：図画工作科の目標の意図 第3回：子どもの発達特性と学年目標、内容との関連 第4回：各学年の造形的な創造活動の特徴 第5回：A表現「造形遊び」の内容と指導法 第6回：A表現「絵や立体」の内容と指導法 第7回：A表現「工作」の内容と指導法 第8回：B鑑賞の内容と指導法 第9回：子どもにとっての鑑賞の意義とその在り方 第10回：子どもの発達特性と指導に関する配慮事項			

第11回：各学年における他教科等との関連の必要性  
第12回：図画工作科と他教科等との関連や横断的な取り扱い  
第13回：図画工作科と「環境」「福祉」等との横断的な取り扱い  
第14回：表現と鑑賞の関連を図った指導法  
第15回：鑑賞とコミュニケーション能力  
定期試験

#### スクーリングでの学修内容

「学習指導要領図画工作科」改訂の要点と内容・意図について確認する。その上で、A表現及びB鑑賞の内容(各内容の実技を含む)を具体的な作品例と関連づけて理解を深める。さらに、図画工作科と他教科等との関連や横断的な取り扱いについて具体的な事例を基に学修する。その際、子どもの発達特性と指導に関する配慮事項や、表現と鑑賞・指導と評価の関連についても理解する。アクティブラーニングの手法も用いて実施。

(主に、第5回～第8回、第11回～第12回の内容を含む。)

#### 教科書

(1) 文部科学省『小学校学習指導要領 平成29年3月告示』東洋館出版社

(2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編 平成29年3月』日本文教出版

#### 参考文献

特になし

#### 学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。